

無

消毒種子での消毒作業手順(浸種~播種)

WCS、飼料用米を含めた全ての無消毒種子は必ず種子消毒を行ってください。

無消毒種子

袋詰め

消毒

種子消毒剤「テクリードCフロアブル」
200倍液、12~15℃で24時間浸漬する。

【消毒方法】

- ①お湯を使い水温18℃に調製する。
- ②「テクリードCフロアブル」を投入し攪拌する。
- ③種子全体に薬液が馴染むように少し揺すりながら種子を投入する。
- ④静置する。

※10℃以下では籾内部への薬液浸透並びに薬効が不十分になり、生育抑制などが生じる場合がある。

※低温が続く場合は、浸漬時間を延長する。

※消毒期間中は静置する。循環禁止！



清潔な環境で
フタをして管理

浸種

水温10~15℃で7~10日間

最初の2日間は水交換をしない。

その後は2~3日ごとに水交換

※水交換時に籾の状態を見て、上下入れ替えを行う。

※浸種期間中も循環禁止。

※水量は、水3.5ℓ:籾1kgを目安に。

籾がアメ色、籾殻が透けて胚芽が見えるようになったら浸種完了の合図

【留意点】

揃った芽揃いのためには、しっかりと浸種させることが不可欠です。温度や日数だけでなく、籾の状態を必ず確認しましょう。

適

伸



重要

催芽

30℃のぬるま湯を厳守

催芽前に湯通し(36~40℃)することで均一なハト胸に。

必ずハト胸状態を確認してから種まきする。

全ての病害防除は種子消毒から始まります。
無消毒種子は必ず種子消毒を行いましょ。JA秋田ふじの